

1043. 確率過程 / differentiation

伊藤 清 (内閣統計局)

§ 1. P -可測性 = 就テ. (Ω, \mathcal{F}, P) γ 確率ノ場
トシ、 $x(\omega)$ γ コノ上デ定義セラレタ X / 上ノ値ヲトル函
數トスル. $x(\omega)$ が確率変數ト云ハレルタメニハ、ソレガ
 P -可測デアルコトが必要デアルガ、 P -可測性ノ定義、タ
ノ = 普通行ハレル方法ハ次ノ如キニデアル. 即チ X / 部分
集合ノ系 σ γ 考ヘ、 σ = 属スル任意ノ集合ノ x = ヨル U -
 $bild$ が P -可測ノ時、 x γ P -可測 (σ) デアルトイフ。
 σ γ 含ム最小ノ完全加法族ヲ B_σ トスルト、 x γ P -可測
(σ) γ 心、 x γ 必然的 = P -可測 (B_σ) トナル。

X が抽象空間の場合に於ては、 X のアル点 a を含む \mathcal{G} のスベテノ集合ノ共通集合が a ンノ ε ノデアルヤウ = \mathcal{G} を選ガコトハ望マシイ。又 X が位相空間ノ時ニハ \mathcal{G} トシテスベテノ近傍ヲ元トスル集合ヲ選ガコトが普通デアアル。故ニ \mathcal{G} + ν 集合系ノ代リニ、位相ヲ表ハス記号ヲ用ヒテ ε ヨイロクデアアル。例ハバ函数空間ノ場合ニ *weak topology* = 開聯シテイフ時ニハ P -measurable (w. t.) トイフ風ニアラハシタリ、又 X = 距離 ρ が入ッラホル時ニハ P -measurable (ρ) トイフカ如キデアアル。

§2. 筆者ガ前談話ニ述ベタル如ク、條件附確率法則 $P_{\eta/\xi}$ ハ確率法則ナル函数ヲ値トスル確率変數デアアルガ、ソノ場合コレハ P -可測 (w. t.) デアツタノデアアル。然レクガ確率変數ノ場合ニハ $P_{\eta/\xi}$ ハ実数空間ノ上ノ確率法則ヲ値トスル確率変數デアツテ、実数空間ノ上ノ確率変數ノ場合ニハ所謂 *Fréchet* ノ距離 ρ が定義出来ルノデ、 $P_{\eta/\xi}$ が P -可測ナリヤ否マノ問題ニスルコトハ自然ト道筋デアアル。答ハ肯定的デ、ソノ証明モ容易デアアルガ、一應マツテ見マシ。

今 F_1, F_2 ノ実数空間ノ上ノ確率法則トスルトキ、
 $y = F_1\{(-\infty, x)\}$, $z = F_2\{(-\infty, x)\}$ ノグラフヲ書キ不連続点ニ於テハ、 $x+0$ = 對應スル点ト $x-0$ = 對應スル点トヲ結バト、ニツノ連続曲线ガ得ラレル。 $x+y = a$ ($-\infty < a < +\infty$) ナル直線ハ各グラフヲ唯一ノ点ニ於テ截ル。

コノ 截点ノ 距離ノ 上限 (a ヲ 動かカス時) —— 實ニ 「最大」ナル 事ガ スグニ 分ル —— ガ F_1 ト F_2 トノ 間ノ Frechetノ 距離デアアル。

コノ 距離ニ 関シテ アル 確率法則 F ノ ε - 近傍 $U(F, \varepsilon)$ ヲ 考ヘテ 見ヨウ。 $x+y=a$ ナル 直線ガ $y=F_1 \{(-\infty, x)\}$ ノ グラフヲ 截ル 点ヲ $p(a)$ トシ、 $p(a)$ カラ $x+y=a$ ニ 沿ッテ ε カケ 距ツク 点ノ 中、 上方ニ アル ε ノ $Q_1(a)$ 、 下方ニ アル ε ノ $Q_2(a)$ トスル。 a ヲ 動かカス時 $Q_1(a)$ 及 $Q_2(a)$ ハ 連続的ニ 変化スルガ、 ソノ 描ク 曲線ヲ 夫々 C_1, C_2 トスル。 C_1, C_2 ハ アル 非減少有界 函数 $y=f_2(x)$ ノ グラフデアアルト云ハル。 F ノ ε -近傍 $U(F, \varepsilon)$ C_1, C_2 ノ 間ニ 挟マレタ 部分ノ 中、 グラフニ 對應スル 確率法則ノ 集合デアアル。

楮テ $f_1(x), f_2(x)$ ガ 共ニ 連続デアアルマウ 十 点ハ 列ル 点稠密デアツテ、 ソノ 中カラ 可附番個 $\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3, \dots$ ヲ トツテ、 之レガ 矢張り 列ル 所 稠密デアアルマウニ 出来ル。 スルト

$$\overline{U(F, S)} = \bigcap_{i=1}^{\infty} F \{ G; f_2(\lambda_i) \leq G((-\infty, \lambda_i)) \leq f_1(\lambda_i) \} \quad (1)$$

トナル。 (\overline{U} ノ 上ノ 横線ハ U ノ abgeschlossene Hülleヲ 表ハス)

$\varepsilon > 0$ ニ ドリ、 $P_{\eta/\varepsilon}$ ハ P -可測 (ω, t)ナル 故

$$P_{\eta/\varepsilon} \in E \{ G; f_2(\lambda_i) \leq G((-\infty, \lambda_i)) \leq f_1(\lambda_i) \}$$

即チ $f_2(\lambda_i) \leq P_{\eta/\varepsilon}((-\infty, \lambda_i)) \leq f_1(\lambda_i)$

ハ P -可測デアル。故ニ $(1) = \exists \eta$

$$P_{\eta/\varepsilon} \in \overline{U(F, \varepsilon)}$$

モ P -可測デアル。

$$U(F, \varepsilon) = \bigcup_{n=2}^{\infty} \overline{U(F, \frac{\varepsilon}{n})}$$

ナル故

$$P_{\eta/\varepsilon} \in U(F, \varepsilon)$$

モ亦 P -可測デアル。即チ $P_{\eta/\varepsilon}$ ハ P -可測 (P) デアル。

§3. x ヲ区間 $(0, 1)$ ノ上ノ確率過程トスル。即チ $(0, 1)$ 上ヲ定義セラレタ実函数ノ空間ヲ値域トスル確率変数トスル。ソノ P -可測性ハ *weak topology*ニ關聯セシメテ定義スル。

t ヲ $(0, 1)$ 間ノ實數トスルトキ, x_t ハ x ノ $t = \text{對スル}$ 値トスル。 x_t ガ P -可測ナルコトハ明ラカデ、之ハ一ツノ確率変数デアル。区間 $(0, 1)$ ノ一部分 (t, s) ノ上ヲ x ヲ考ヘテ (t, s) 上ノ確率過程ヲ得ル。之ヲ $x_{t,s} = \text{テアラハス}$ 。 $x_{0,t}$ ガ定マツタ時ノ $x_{t_1} - x_t$ ($t_1 > t$)ノ條件附確率法則 $P_{x_{t_1} - x_t / x_{0,t}}$ ヲ考ヘヨリ。之レハ前節ニヨリ P -可測 (P) デアル。

$$P\text{-}\lim_{\substack{t_1 \rightarrow s+ \\ t_1 \rightarrow s-}} \left(P_{x_{t_1} - x_t / x_{0,t}} \right)^* \left[\frac{1}{t_1 - t} \right]$$

[λ] ハ λ ノ 實數部分ヲ 表ハシ
*ハ convolutionヲ 表ハス

が存在スルトキ、確率過程 X の $S =$ 於テ微分可能トイヒ、
 コノ極限值ヲ $D_S X =$ テアラハス。 $D_S X$ の確率法則ヲ値ト
 スル。 Ω 上ノ函数ナリ、而シテ P -可測 (P) ナル。又 $D_S X$ が
 $X_{0,S}$ ノ函数ナルコトニ容易ニ分ル。而シテ

limit law (of probability) の無限分解可
 能ナル。(Khintchine) = ヨリ $D_S X$ の無限分解可能
 ナルコトが分ル。

§4. $D_S X$ が無限分解可能トスレバ、ソノ特性函数
 ノ對數ハ P. Lévy ノ定理ニヨリ

$$i m z - \frac{\sigma^2}{2} z^2 + \int_{-\infty}^{+\infty} \left(e^{i z u} - 1 - \frac{i z u}{1+u^2} \right) \nu(du) \left(\int_{-\infty}^{+\infty} + \int_0^{+\infty} \right)$$

= テ表ハサレルヲケテアル。而シテ次ノ (2) (3) (4) ハ Khint-
 chine ノ

Déduction nouvelle d'une formule de P. Lévy
 ノ方法ニテ容易ニ証明出来ル。(1)

$$\lim_{\substack{t \rightarrow S+ \\ t \rightarrow S-}} \frac{1}{t_1 - t} \int_{-\infty}^{+\infty} \frac{u}{1+u^2} P_{x_{t_1} - x_t / x_{0t}}(d\lambda) = m \quad (2)$$

$$\lim_{\delta \rightarrow 0} \lim_{\substack{t_1 \rightarrow S+ \\ t \rightarrow S-}} \int_{-\infty}^{\delta} u^2 P_{x_{t_1} - x_t / x_{0t}}(d\lambda) = \sigma^2 \quad (3)$$

$$\frac{1}{t_1 - t} P_{x_{t_1} - x_t / x_{0t}} \xrightarrow{(P)} \nu \quad (4)$$

(1) Bull. de l'univ. d'état à Moscou, Ser. inter.
 Math. et Mec. vol 1. Fasc. 1. 1937.

意 = P の Fréchet 距離 = + ラックヲ定義スルコトトシ
 n のグラフハ

$$y = n(-\infty, x) \quad (x > 0)$$

$$y = -n(x, +\infty) \quad (x < 0)$$

1 グラフトシ、 $\frac{1}{t_1 - t} P_{x_{t_1} - x_t / x_{0t}}$ のグラフ \in 同様ニ定義スル。
 (2) (3) (4) = コリ m, σ, n が確率変数トルコトガワカル。
 n の実数軸カラ 0 ヲノゾイタ部分ノ上ノ測度ヲ値トスル
 \in ノデ、ソノ P -可測性ハ上ノ P = 閉聯シテ定義スルノ
 デ了ル。

特ニ $n=0$ ノ場合ニハ

(2) ノ代リ =

$$\lim_{\substack{t_1 \rightarrow s+ \\ t \rightarrow s-}} \frac{1}{t_1 - t} \int_{-\delta}^{\delta} u P_{x_{t_1} - x_t / x_{0t}}(d\lambda) = m \quad (2')$$

(3) ノ代リ =

$$\lim_{\substack{t_1 \rightarrow s+ \\ t \rightarrow s-}} \frac{1}{t_1 - t} \int_{-\delta}^{\delta} u^2 P_{x_{t_1} - x_t / x_{0t}}(d\lambda) = \sigma^2 \quad (3')$$

(4) ノ代リ =

$$\frac{1}{t_1 - t} P_{x_{t_1} - x_t / x_{0t}}(E) \rightarrow 0 \quad \left(E \text{ ハ } 0 \text{ のラビノ距離が } \delta \text{ 距ッノ集合トスル} \right) \quad (4')$$

ガ出ルコトモ容易ニ証明出来ル。